

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年11月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2025年11月14日～11月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 125社
- 回収率 62.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の11月の状況を見ると業況DIは、前月より6.1ポイント改善の▲19.2となった。

2017年9月以来99ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.2、当月と比べ4.0ポイントの改善が見込まれる。

### 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2025年12月～ 2026年2月
業況	▲11.7	▲18.2	▲19.8	▲20.9	▲25.3	▲19.2	▲15.2
売上	7.1	▲3.7	▲6.6	▲6.7	▲10.0	▲4.8	▲12.8
採算	▲11.0	▲16.1	▲20.6	▲21.6	▲26.9	▲16.0	▲12.0
仕入単価	▲56.3	▲58.4	▲52.9	▲60.5	▲58.4	▲56.0	▲51.2
販売単価	30.4	28.5	19.1	21.7	23.9	26.4	25.6
従業員	32.1	29.9	28.6	33.6	35.4	35.2	35.2
資金繰り	▲9.4	▲10.9	▲15.5	▲8.9	▲14.6	▲12.8	▲12.8

### 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2025年12月～ 2026年2月
建設	▲10.3	▲19.3	▲23.4	▲24.1	▲35.5	▲34.5	▲20.7
製造	▲10.0	▲23.4	▲19.3	▲23.3	▲23.4	▲24.2	▲10.3
卸売	▲7.4	▲15.7	▲15.4	▲16.7	▲17.9	▲10.7	▲17.9
小売	▲38.9	▲35.0	▲40.0	▲44.4	▲41.2	▲17.6	▲23.5
サービス	0.0	0.0	▲6.9	▲3.7	▲12.5	▲4.6	▲4.5

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も管外業者の参入により競争が激化し、管内業者が工事受注できない懸念がある。資機材価格・下請施工費の高騰により利益を圧迫している。（総合工事）</li> <li>・今回の政府の補正予算は、需要が弱い状況下で建設投資を下支えする効果があり、工事量の増加という点ではプラスに働くと考えられている。一方で資材・燃料の高止まりや人手不足に伴う単価上昇は今後も続く見込みで、利益面の厳しさは依然として残っている。総じて工事量は確保されるものの、収益性の改善には引き続き工夫が必要と考えているが、全体としてはおおむね好感している。（設備・その他）</li> <li>・技能者の高齢化に伴い、生産性が低下してきており、次世代の技能者を育て人材確保に繋げたく募集をするが、なかなか入社には至っていない。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原価、人件費の上昇はあるが、客数減をカバーする客単価で推移。来期中には更なる販売単価の値上げが必要。これから繁盛期に突入するので機会ロスのないよう準備している。（食料品）</li> <li>・売上高、コロナ前の実績には届かないが回復基調の兆候が見られる。職人の高齢化が新たな問題となる。（家具・木材）</li> <li>・少しずつであるが新規の引き合いが増えつつある。海外からの問い合わせも増えてきた。（家具・木材）</li> <li>・採算割れないよう、受注には業界全体の協力が必要。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の減少は物価高騰による嗜好品の買い控えの影響が大きいと思われる。仕入原価の高騰により、販売単価の上昇の影響も多少考えられる。（食料品）</li> <li>・今現在、従業員数は足りてはいるが先のことを考えると必ず不足するので今から採用をしていかななくてはならないが、採用するのが難しい。（機械鋼材等）</li> <li>・当月の業況は前年同期に比べ微減に推移。売掛金の入金は順調に進んでいるも、肝心の売上げの伸びが今一つで顧客の販売意欲はまだ低調でしばらくの間は足踏み状態が続くとみている。（その他）</li> <li>・灯油の需要期に入り、仕入価格は小幅に下落しているが、先行き不透明な状況は変わらず。販売価格は現状のまま推移するものと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年より秋冬商品 10%以上値上がりし、購入を考えて来店した顧客が予算以上の価格のため、購入に踏み切れず退店する顧客が多少見られる。特にアウトター関係は高額なため、販売する側も苦労している。売上も厳しい状況である。（衣服身回品）</li> <li>・11 月前半は北海道の観光シーズン外の時期のため観光客の来店が大幅に減少。これに伴いこれまで観光客需要の高かったモーニング帯の来店数も減少し、全体的に静かな推移となった。また、地元客の利用も平日を中心に伸び悩んでおり、客層の偏りが継続。さらに 11 月後半からは中国の渡航制限の影響が徐々に表れ、インバウンド需要の減速が顕著となった。平日昼間とモーニング帯の需要喚起に向けた対策が今後の課題。（食料品）</li> <li>・新年度に期待するも販売市場は非常に不透明であると感じている。（自動車）</li> <li>・暖冬傾向による灯油の需要減が心配されるが採算は好転している。（その他）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今月はビジネス客も観光客も少なく売上が減少。それに伴い単価を下げ販売。本格的な冬の観光シーズンに期待。（ホテル・旅館）</li> <li>・今後、定年退職者の増加が見込まれる中で中途採用や新卒採用による人員補充が追いつかず、人材不足に陥ることが懸念される。（その他）</li> <li>・ガソリンや軽油の価格推移や今冬期も大陸中華系インバウンドが多いかによって収益状況も変わってくる。インフル流行も大きな懸念材料のため、予防接種が望ましい。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI9.5 ポイント改善、採算 DI12.1 ポイント悪化、仕入単価 DI2.7 ポイント改善、販売単価 DI2.1 ポイント悪化、資金 DI4.6 ポイント悪化、従業員 DI0.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 19 ポイント悪化、総合工事横ばい、設備・その他 21 ポイント改善となった。今年度は前年度より売上は減少の見通し。新年度は、今現在 1 億円分は確保。1 月より従業員 1 名入社予定との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI6.9 ポイント改善、採算 DI23.1 ポイント改善、仕入単価 DI12.0 ポイント悪化、販売単価 DI14.7 ポイント改善、資金 DI20.0 ポイント改善、従業員 DI0.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.8 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 32 ポイント改善、食料品横ばい、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 18 ポイント悪化となった。エネルギー価格、労務費等のコスト増や価格転嫁、人手不足との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI14.3 ポイント改善、採算 DI14.3 ポイント改善、仕入単価 DI7.1 ポイント改善、販売単価 DI7.1 ポイント悪化、資金 DI3.6 ポイント悪化、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 7.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品、その他 14 ポイント悪化、繊維・衣服等 31 ポイント、機械鋼材 29 ポイント改善となった。鳥インフルエンザのため、原料の入荷が減少。製造量が減少のため売上也減少との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI17.6 ポイント悪化、採算 DI29.4 ポイント改善、仕入単価 DI47.0 ポイント改善、販売単価 DI29.4 ポイント悪化、資金 DI5.9 ポイント改善、従業員 DI5.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 23.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 17 ポイント、その他 52 ポイント改善となった。米を始めとした食料品全般の値上がりを受けた消費者の節約志向の影響が出始めているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI5.7 ポイント改善、採算 DI8.3 ポイント改善、仕入単価 DI19.0 ポイント悪化、販売単価 DI28.1 ポイント改善、資金 DI10.3 ポイント悪化、従業員 DI4.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.9 ポイント改善となった。業種別では、整備業 20 ポイント悪化、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館 20 ポイント、その他 17 ポイント、飲食 33 ポイント、運送 8 ポイント改善となった。建物の老朽化に伴うコスト増との声も寄せられている。</p>